

## 暴風雨の避難小屋で

大雪山国立公園にはいくつかの避難小屋が存在する。避難小屋の近くには野営指定地もあり、持参したテントを張ることもできる。

山の中の避難小屋には電気もガスも水道もない。あるのはおいしい空気と最高の景色。とはいっても、いつも天気が良いわけもなく、真っ白なガスに包まれる時もあれば雨の時や風の強い時もある。

先日、山中2泊の行程で縦走に出かけたのだが、台風から変わった低気圧が北海道を通過するタイミングで、初日の午後から風が次第に強くなり、1泊目の白雲岳避難小屋に着くころには歩けるものの少しよろけるような風となっていた。

天気予報では、翌日さらに風が強くなる予報であったため、テントではなく避難小屋に泊まることとした。

2日目の早朝、予報通り風の勢いは増し、風のうなり声で目が覚めた。避難小屋の周辺でさえ立っているのがやっとという状況で、忠別岳避難小屋



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人たちのリレーをしています。

までの行程は不可能だと判断し、この日は避難小屋で停滞を決めた。

30名ほどいた登山者は誰一人として行動することではなく、全員が停滞と決めるほどの状況であった。

停滞の日は、皆それぞれに本を読んだり話をしたりして時間をつぶして過ごしているのだが、われわれは朝からトランプをしてお茶で休憩し、またトランプをして食事…という具合に耐久トランプ大会となった。和気あいあいと談笑し、トランプをしていられるのは、山の中に建って風雨を避けられる避難小屋のおかげである。

天候の判断さえ間違わなければ、山の中で泊まり歩き山旅は、最高の時間となる。たとえ予定の行程がかなわないとしても…。山の中で感じるのは、われわれがすぐくちっぽけな存在だということだ。

アウトドア・ガイド Natures 中川 伸也



夏と果物  
夏になり、東川町は一番暑い季節を迎えますね。暑いと言（い）っても、タイの暑さは比べるものにならないくらいです。冬がないタイという国は、一年中暑いです。  
11月から2月は最も過ごしやすい季節でも、山の山頂は2〜5度まで下がりますが、平地での平均気温は約24度です。夏の3月から6月は40度まで上がる日もあります。残りの7月から10月までは雨期なので、ほぼ毎日大雨が降ります。その暑さは大変ですけど、その代わりに利点があります。  
冬がないおかげで、一年間おいしい果物を食べられます。季節によって違いますが、マンゴー、バナナ、パイナップル、グアバ、パイナップル等是一年間楽しめます。特に、マンゴーとバナナは100種類もあります。そして、マンゴー、バナナ、パイナップルは育てやすい果物なので、だれでも植えられます。この間、母がパイナップルを買ってきて、食べたおいしいと思ったので、その種



タイの自宅に植えているバナナの木です

を植えてしまいました。こういふふうで、私の家は自家製のバナナ、マンゴー、パイナップルを食べられます。バナナやマンゴーがあまりすぎる時は、お菓子を作ったりします。  
有名な果物のデザートだと、「カオニャオ・ナムアン」という不思議な食べ物です。もち米をココナッツミルクで炊いて、甘くて香りがいいマンゴーと食べたら最高です。ご飯なのにデザート？外国人にとっては変かもしれませんが、食べてみたら止まらないです。  
どんなに暑くても食べ物がおいしいので、そのために来る観光客もたくさんいます。



国際交流員  
シッシャノック・ホンティップラット